

小学校【図画工作科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛驒教育事務所

1 図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」のとりえ

「主体的な学び」 ・・・	意欲的な学習を積み重ね、つくりだす喜びを味わい、最後までやり遂げることができる学び 学習活動の見通しをもち、また、学習したことを自ら振り返り次の学びにつなげていく学び
「対話的な学び」 ・・・	創造活動を通して、教員や友達、地域の人、自分自身などと対話し、自分の見方や感じ方を深めたりよさや美しさなどを幅広く味わったりする学び
「深い学び」 ・・・	造形的な見方・考え方を働かせ、主体的に学ぶ意欲や豊かな発想・構想、創造的な技能、造形的なよさや美しさを感じ取り味わう鑑賞の能力が質的に高まる学び

造形的な見方考え方・・・ 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	・自分の感じたこと、途中の作品から、やりたいことを話す。 ・表現方法やポイントを理解する。 本時の課題を確認する。 ・本時の個人課題を決める。	児童が自分の課題や学習状況を判断し、〔共通事項〕の視点から造形的な見方・考え方を働かせて、自ら表現形式や技法、材料や用具、資料などを選択して表現したり、鑑賞したりする。 【主体的な学び】 ・生活体験の他、材料や用具、表現方法から一人一人が自分の表したいもの（主題）を見付けさせる。 ・「自らの思いや願いとのずれ」「新しい表現や美しいもの、おもしろいものとの出会い」などから自分の課題や学習状況を判断させる。 ・教師の示範作品を見せ、示範作品と異なる新しいアイデアを出すことのねうちを伝える。 ・「ポーズ」や「色」「背景」など表現のための工夫のポイントまたは鑑賞するための視点を示すことで、自分の課題解決のための見通しをもたせる。 ・集めたたくさんの落ち葉などの素材を、児童と共に形と色の種類別に分けることで、素材の形や色への見方・感じ方を深める。
	児童が自分の課題を解決するために、試したり、交流したりする。	
深める	・個人課題を追求する。 ・友達のアドバイスや様々な資料をもとに試行錯誤し、表現を深め、広めていく。 ・仲間の考えや表現のよさに気付く。 ・さらなる個人追求をする。	【主体的な学び】 ・他の児童の表現とは違う新しいアイデアで表現しているよさを机間指導の中で紹介する。 ・「どのようにつくったのか（描いたのか）」を問い、価値付けることで、自分の表現を振り返るとともに、自信をもってさらなる追求に向かうことができるようにする。 【対話的な学び】 ・班隊形で活動（表現）することで、必要に応じて仲間の表現を見たり、互いに教え合ったりすることができるようにする。 ・「作品を転がして遊びながら形や色を確かめる坂を教室の中央に一つ準備する」「製作途中の帽子をかぶって確かめる鏡を一枚準備する」など、複数の児童が試し確かめる中で自然な交流が生まれるよう、お互いの表現のよさを学び合う場を設定する。 ・材料（素材）や用具の特徴やよさを十分感じ取ることができるよう、材料（素材）や用具に十分触れたり、試したりできるようにする。 【深い学び】 ・うまくいかなかった場合も、壊してつくりなおす姿を価値付け、「つくり、つくりかえ、つくる」ことでよりよいものより楽しいものができることを実感させる。
	・本時での自己の変容や苦労したこと、困ったことを振り返る。 ・次時の見通しをもつ。	児童が自分自身で自己の変容を実感するとともに、活動内容だけにとどまらず、造形的な視点でも振り返る。 【深い学び】【主体的な学び】 ・デジタルカメラやスキャナで保存しておいた前時までの作品を画面に映し、本時終末での作品と比べながら振り返る（何をやったかだけでなく、どのような感じになったのかを感じ取る）ことで、表現の変容を確かめさせる。 ・互いの作品（表現）を見合いながら「身近な材料でこんなに面白いものができるんだ」「次はもっと～したい」「家でも何かつくってみたい」という意識を生み出す。 ・題材のはじめに限らず、材料や用具の特性を十分に楽しみ、そこから生まれた形や色を基にあとから題名をつけることで、表した主題を考えさせることもできる。
まとめる		